地域における教育実践報告

岡村　浩

一、はじめに

教育に関する研究成果を学外で発表、還元をしている。表題の地域とは学外各地を指す。主なものを項目に分けると、

○出前講義
○教員免許更新講習
○公民館社会事業
○成人向け趣味に関するもの

各々の大学教員も同様に取り組んでいるが、実態はほとんど学内で話題にされることはない。小稿は上記の項目中とくに出前講義の一部に触れつつ活動報告を行うものだが、授業者の準備と受け皿側の姿勢とが如何にあるべきか。自己の活動を整理すると共に、出張先の各機関学校の参加者、または事業担当者の方に読んで頂くことをねらいとする。限られた時間、その場限りのやりとりでほぼ全てが終了している中、改めて全体をふり返り、効果と問題点をみつめたい。

二、出前講義の概容

大きく分類すると、

①大学と高校との接続推進事業として、大学（教育戦略統括室高大接続推進部門実施）に窓口があるもの。高校生を対象とするもので、毎年度これに応じる可否と、担当する際の講義名と概容を提出する。窓口が集約し、公開。それに学外からの要望があった場合、都合がつけば伺う。

②教育学部と市町村との取り決めによるもの。「みつけ子ども大学」など。

③個人的に応じるもの。

に分けられる。

①についてだが、平成二十九年度では、

富山高等学校　六月十三日
新潟第一高等学校　十一月十七日

の二校であった。平成三十年度は、

福島県立葵高等学校　六月八日
福島県立白河高等学校　九月十九日
長野県赤穂高等学校　九月二十七日
新潟明訓高等学校　十月十七日
新潟第一高等学校　十月二十五日
新潟県立六日町高等学校　十一月九日

の六校である。毎年二、三校平均だが、本年度は増加した。特例として三条市市民部生涯学習課の依頼で、成人大学講座を開講（三十一年三月五日）。

筆者の公表している授業名は「文字を楽しく書こう」。概要を略記すると、教科は国語に当たる。文字の成り立ち、文字に関する一般教養、上手に文字を書くコツ、以上を講義した上で、実技を行う。書写教育に理解のある

二〇一九・一〇・二二　受理

教員の目線から、国語科授業を展開する一例と捉えて頂きたい。

各校での出前講義の開き方だが、

○新潟大学のみを対象に、各学部から一名講師を招聘する。全学部の場合と、希望のあった学部のみの場合とがある。

○周辺の大学を招聘する。大学の数はまちまちである。

○周辺の大学及び専門学校もしくは役場公務員向け、一般企業の採用担当者を含むもの

同じ新潟大学教員との間で遠いところでは、青森・秋田にまで出張したと話題に上ったことがある。今年度の白河・赤穂高等学校は遠方に当る。後者は一時間の講義のために前泊して伺ったが、待ち望んでくださる初対面の生徒学校関係者から篤いもてなしを受けた。

ちなみに赤穂高等学校「二〇一八　大学模擬講義」では、

1【日本文学・文学】都留文科大学教員「新しい学びのかたち」タイプライティング室 14人

2【外国語・外国文化】山梨英和大学教員「言葉の不思議」1B 26人

3【経済・経営・商学】信州大学教員「リーマン・ショックとサブプライム・ローン」1C 26人

4【法学・社会】名城大学教員「法学に触れてみる」1D 12人

5**【教育学】新潟大学教員「手書き文字を楽しもう」1E 13人**

6【幼児教育】飯田女子短期大学教員「コミュニケーションについて遊びを通して学んでみよう」2A 28人

7【心理学】清泉女学院大学教員「大学で初めて学ぶ心理学」2B 24人

8【社会福祉学】飯田女子短期大学教員「福祉の仕事ってどんな仕事?」2C 8人

9【理工学・情報学】諏訪東京理科大学教員「空気抵抗を考慮した粒子の運動」生物室 32人

10【看護学】長野県看護大学教員「他者への関心～それが看護の原点～」2E 32人

11【農学・生命科学】新潟食糧農業大学教員 2F 5人

12【家政学・栄養学】松本大学教員「大丈夫?あなたの食生活」総合実践室 21人

13【運動科学】中部学院大学教員「スポーツ選手のメンタルトレーニング」商事実習室 20人

14【建築・インテリア】名古屋造形大学教員「スケッチパースを描いてみよう」理科講義室 18人

15【理容美容】窪田理容美容専門学校教員「国家試験課題を体験しよう」化学室 26人

16【医療技術】日本福祉大学教員「これからのリハビリテーション医療と専門職」2D 19人

17【服装・デザイン】岡学園教員「コラージュ作成」会議室 18人

18【公務員】駒ヶ根市役所職員「公務員出前授業」1A 19人

19【就職】上田情報ビジネス専門学校教員「就職の心構え」記念館　77人

と幅広い分野が集まった。

〈講義の概容、一〉

学力の水準が不明、生徒と会うのは初めて、教室会場も伺ってみなければ実感が湧かない。相手の反応も予想し難い。したがってまずは、冒頭の切り出しを重視して慎重にのぞむ。

筆者の場合、まず自分の氏名を大きく板書する。ていねいに書いた例と、走書きをしたものを例示する。古来「書は人なり」といわれる格言を、身近に感じさせる好例である。書きぶりは人柄を如実に反映する。多忙の現代社会にあって、走書きも当然、悪いことではない。一方とっておきの時には、丁寧にしっかりと書く気持ちも併存してほしい。要するにその場に応じた書きぶりを意識することをすすめる。生涯にわたって氏名を何度書くか判らない。小欄といえども書類を受け取った側は、その書きぶりをまじまじとみるものである。自署・署名こそ大切にしたい。

〈講義の概容、二〉

上手に書くコツは、

○縦画はまっすぐ引く。

○横画は少し右上りにそり上げる。
○字形は正方形からやや縦長。
縦・横・字粒の大小を問わず、すべての書式にあてはまる。このルールは中国唐代初め、約六百年過ぎの先人の書跡に完成形が看取され、以来書き方の典範とされてきた。
くづさない書体を「楷書」、早く書くためのものを「行書」と称す。二体各々の特性長所を紹介する。
一般にこの二体のみが、くらしで用いられている。しかし店の看板ロゴの類には、別の書体の使用例も散見する。したがって視野を拡げて、今日の公式書体「楷書」完成までの絵画的記号から、それが生まれるまでを図示して、漢字の実用・芸術性（美的観点）とに、関心が寄せられるよう説く。
次いで漢字と平仮名・片仮名との相互関係について語る。

〈講義の概容、三〉

硬筆用手本一枚を配布し、漢字または漢字仮名交じり文、楷書行書の範囲内で書いてみる。
○大きく力強く（濃く）。
○とめ・はね・はらいを意識する。
○各文字の部首名は筆順等、関連する教養学習も視野に入れる。
右記を注意点として練習する。近頃のパソコン・スマートフォン中心生活が加速する余り、平素の授業中メモを取る習慣が希薄になっている。何もいわなければ、小粒で字間を詰めて書いてしまう。大きな枠のある練習用紙を配布し、それに書いてもらう。

三、実例

明訓高等学校（新潟市）における出前講義、「文字を楽しく書く」について報告する。平成三十年十月十七日、十三時三十分から一時間講義。その後質疑を十五分程度行う。
この日は進路指導者からの推薦、交渉によって、新潟大学から五人の教員が集まった。同校は一学年十クラス、各クラス四十名以上の生徒数、そのうち一、二年生全員を対象にしたもの。五人が相手をする生徒数は若干異なるが、筆者の担当は一六五人の参加予定者。
伺えば「平成三十年度　第二回進学セミナー」として開かれたもので、実施要項によると目的は、「高校一・二年生の大学理解、学部理解を深めるために、大学の教員による模擬授業（出張講義）を実施する。これにより、低学年からの進路選択の動機づけとし、各学問分野に対する視野を広げ、進学への意識を向上させる。」と記している。内容については、
●文系
①【法社会学】新潟大学　法学部教員　演題「法学部ではどんなことを学ぶのか」社会科地学教室　一年生63人二年生37人合計１００人
②**【教育学（書写）】新潟大学　教育学部教員　演題「手書き文字を楽しもう」講堂　一年生58人二年生１０７人合計１６５人**
③【環境経済学】新潟大学　経済学部教員　演題「経済学の窓から見える世界」音楽ホール　一年生58人二年生67人合計１３４人
●理系
④【基礎医学（薬学）】新潟大学　医学部教員　演題「薬はどのように効くのか」第一体育館　一年生97人二年生67人合計１６４人
⑤【生産デザイン工学】新潟大学　工学部教員　演題「ロボットが変える未来社会」第二体育館　一年生57人二年生81人合計１３８人
筆者に用意された会場は大講堂のような広いところで、前面のホワイトボードを中心に講義を行う。生徒の着席が後半の椅子に集中し、前方が開いていてホワイトボードとの間に距離感を覚えた。これまでの経験では、二、三十人で一般教室を用いて行うことが大半で、その際は、たとえ後方に着座していたとしても、前に座るよう指示をすれば容易に移動が出来る。明訓における今回分については、まず教室を開始前に確かめ、当方の希望を伝えることをする必要があった。
また教室の空間が広いため、声が通り難い。会場の広狭によって話す情報量の選別も必要になることを改めて強く意識した。

〈講義のながれ〉

①「明訓高等学校」と書いてみよう、と指示。「明訓」の古い字形、文字の意味。「等」字を用いての、手書きと活字体の違い。

②漢字には三千年の歴史がある。ゆっくり時間をかけて実用と美的センス・バランスに配慮しつつ、千五百年前に現在の字形にたどりついた。以降同じく千五百年間、漢字は不変。生地中国では今や簡体字を用いている。漢字文化圏で元々の字形を用いているのは、日本位であって、この点から日本が伝統を重んじる傾向、生徒の苗字をみると百パーセントが漢字、国名も漢字。わが国は、それ程漢字が大好きな民族である。

③引率した学生三人に、あらかじめホワイトボードに自己の氏名を大書させたものに注目。楷書、行書、全てひらがなを用いて、三人に書き分けさせたもの。三書体の違いを見つける。また、この時に三人の自己紹介をさせる。出身は新潟・外山・福岡。全国でも珍しい学び舎である所以である。決定した進路は中学校国語・高等学校書道教員、生命保険会社。各々志望理由、動機を語る。

④書体の変遷を「天」字の成り立ちを図示しつつ解説。学生に事前に書いてもらってきた作品を、ホワイトボードに貼る。一人は「いろは」（仮名）、一人は行書、一人は篆書による。「いろは」表を用い、平仮名で「イロハニホヘト」と生徒全員に書いてもらい、代表一人がホワイトボードに書く。

・漢字は中国漢民族によって案出。

　直線的。

・平仮名の「平」は簡単に、の意。

　漢字を簡単にしたもの。日本人の嗜好がその曲線美にうかがえる。

・片仮名は感じの一部分を用いて日本人が加工。平仮名と異なり、直線的。

　漢字と近い。

⑤学生二人の揮毫作の紹介。

解説を通し、大学における専門性の追求のあり方を示す。

⑥小中高大学の学びの連携、高校と大学の違いについて。

・大学では研究の二文字が前面に出る。高校までの漠然とした拡がりを持つ夢を、大学進学後少しずつ磨き絞っていく。だから「研」（とぐ）の文字がある。「究」は、どこまで絞り研ぐのかを表す。それは「穴」の如く間口がごく狭い。また奥行きが深い。どれ位深いのか、十進法上、満杯の手前の「九」位、よって穴冠の下に「九」字が付いている。

・やりたい目標をどんどん絞っていく必要があるが、それは大学卒業後、長い人生に関わるもの、実用性を伴う研究対象であることが望ましい。時間と労力を用いたものが在学中のものでしかなくなると、徒労である。

⑥終わりに。学生三人が、学生生活や受験勉強について語る。身近な先輩の話は、時に教員の話と比べ生徒の心に響くものがある。実際学生の話に一々拍手が贈られたのは喜ばしい。

〈ふり返って〉

開始前に進路指導教諭の方から、大勢の生徒の態度にはムラがあるので、大いに叱ってほしいと伝えられた通り、講堂後方の一部には参加態度に難を感じる点もあった。しかしこれは、新潟大学におけるGコード科目、百五十人規模の講義の光景と変わりない。今回のこのような光景に接して、臨機応変に、時に刺激的に、こちらに注目させる手段を取るべきか、あるいはそのままやり過ごして、興味を持つ生徒を相手にした態度で終始するか。

理想としては前者のやり方が出来るよう、平素の大学大人数参加の講義について、さらに意欲的な姿勢がみせられるように努めたい。

具体的な手段は書き方、筆順を問う際、ホワイトボード（黒板）に生徒を指名して書いてもらう参加型。もう一つは発問して相手の理解度を確かめる会話型。今回百五、六十人の生徒数では到底個別の添削は出来ないが、生徒との距離を縮めるためには、こちらが教卓演壇を離れ、生徒の座る方に近寄り、いわゆる机間指導に当たる取り組みの様子を確かめることを試みた。

活気のある反応、一向に自分を表さない場面、各学校において生徒の態度様子に大きな差があるのは事実である。二度目があれば改善する手立ても考えられるが、それが出来ないのが出前講義である。筆者もいくつかのパターンを準備して伺い、一話読み切り型の仕事として行うしか今のとこ

ろ方策はない。

さらにいえば、あらかじめ学校側から提供される情報によって、講義の改善対策を講じる面も多々あろう。

この点、今回の明訓高等学校では、「学校案内二〇一九」（中・高）二冊を配布してくださった。学校の成り立ち・学校行事・部活動・校舎施設・進路指導そして進学実績等の記事を収録しているので、およそ目を通せば全体観が読み取れよう。また控え室で進路指導担当者から、新潟大学への進学状況についてもお聞きするなど出来た。当然講義中、本校受験へのいざないをする際、生徒の側から身近に感じる話題であるかを測れる。

学校要覧の配布は他校でもみられるが、何も渡されないことも少なくない。生徒の現況に関しては、校長から伝えられることが多い。

なお同校は書道が盛んで、これまで優れた人材を本学書道科・書表現コース・書分野専攻に育て送られている。引率した学生一名もこちらの卒業生。書道教諭の方に、この度の出前講義の際も大変お世話になった。各校に伺い、書道教育の実状を見学するのは楽しみの一つで、

○校門の題字
○校歌の揮毫
○いしぶみモニュメント
○校長室の書作品（額類）
○要覧・パンフレットの題字

等、見どころは少なくない。このような視点を持つのは筆者位であろうが、書とくに筆文字が、大切な場面に学校の顔としての役割を果たしているのは間違いない。

四、まとめ

自分の専門性による講義を展開することを通して、大きなねらいには新潟大学受験へのいなざいがある。出前講義とは一人でもやる気のある学生確保に向けた、大学人の自己紹介の場である。と同時に、その大学キャンパスに、全国でも稀有な書文化を実技演習・理論座学の二面からの多岐に及ぶ学習を経験できる講座が、新潟大学には存在することの広報伝達に出来得る限り努めるものである。

予定通り展開できた時と、反省しきりで帰途につく時と交々ある。後日礼状と一緒に、生徒の書きまとめた感想文が送られてくる場合がある。手応えを感じると共に、読むと当日の光景が鮮やかに思い出される。それ程詳細に記録、かつ生徒自身の取り組みの姿勢が行間に垣間見えてくる。つまりこれを読めば、当日の私の仕事ぶりの成否は明らかになる。或る学校の御二人分を引用させていただき、小文の締めくくりとする。

○講義の概容（二項目についての記述欄あり）

美しい文字を書く時に大切な事は、真っすぐな縦線、右上りでわん曲した横線、縦長な形状である。二十歳前後で自分の文字が固まる。〝実用的な事〟を学ぶのが大学である。５００年以前（１５００年間）美や実用性を重視して漢字が作られた。その後、丸いものが好きな日本人は、字の簡略化なども含め、平仮名をつくった。真名＝漢字であり、仮名は書き下し文などの作成時に仮の記号として使われていた。平仮名は曲線的、漢字は直線的である。９００年に仮名文字の完成。血液型によっても文字のくせに差がある。高校までは授業（業を授く）だが、大学では（主体的に）研究を行う。生徒はパートナー。

○感想

私は書道部に所属していて、行書を担当しています。しかし、今まで字の成り立ち、意味などについて深く調べたことはありませんでした。だから、今回の講義を通して、字というものに興味を持っただけでなく、書道を行う際に字のつくりを意識することが出来そうです。また、私は国語科の教員を目指しているため、教員になるために大切な事は勉強だけではないという事に刺激を受けました。今回は文字についての理解を深めるだけではなく、大学や社会において大切な事を学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごす事が出来ました。本当にありがとうございました。

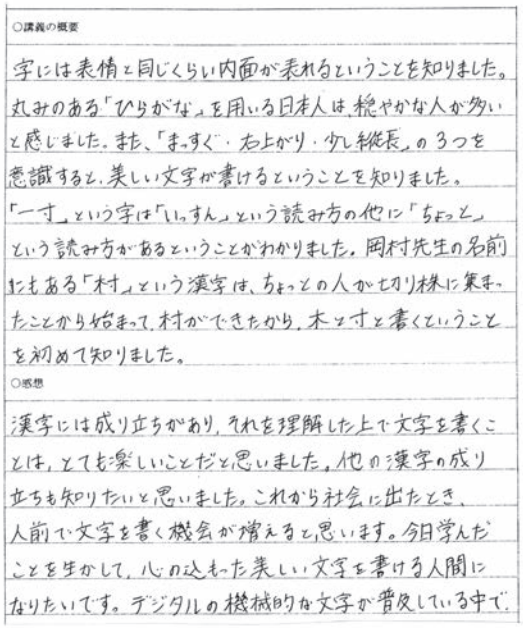
○講義の概容（二項目についての記述欄あり）

字には表情と同じくらい内面が表れるということを知りました。丸みのある「ひらがな」を用いる日本人は、穏やかな人が多いと感じました。また、「まっすぐ、右上がり、少し縦長」の３つを意識すると、美しい文字が書けるということを知りました。「一寸」という字は「いっすん」という読み方の他に「ちょっと」という読み方があるということがわかりました。岡村先生の名前にもある「村」という漢字は、ちょっとの人が切株に集まったことから始まって、村ができたから、木と寸と書くということを初めて知りました。

○感想

漢字には成り立ちがあり、それを理解した上で文字を書くことは、とても楽しいことだと思いました。他の漢字の成り立ちも知りたいと思いました。これから社会に出たとき、人前で文字を書く機会が増えると思います。今日学んだことを生かして、心のこもった美しい文字を書ける人間になりたいです。デジタルの機械的な文字が普及している中で、改めて温か味のある手書き文字は、素晴らしいと感じました。

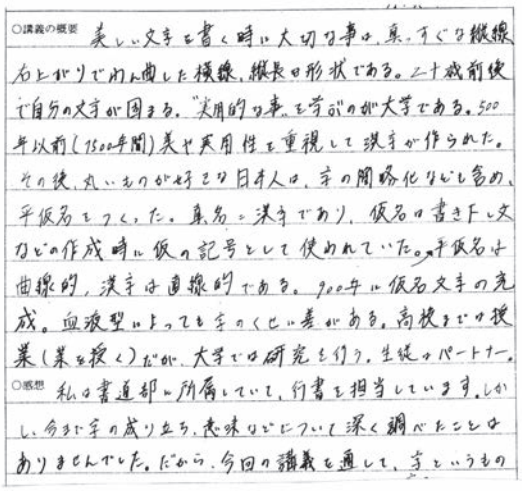
感想を送付頂く学校は余り多くない。実際のところ全ての学校で講義終了後、このようなふり返りの執筆がなされる。時間の乏しい中、大抵は走書きになろうが、右の文は講義内容を反映した減張りある整った書きぶりであったことを特筆しておく。「読み、書き」「話し、書く」といわれる。加えて、書くことは考えることである。即時の作文力の安定感にも賛辞をおくりたい。


○講義の概要

字には表情と同じくらい内面が表れるということを知りました。丸みのある「ひらがな」を用いる日本人は、穏やかな人が多いと感じました。また、「まっすぐ・右上がり・少し縦長」の3つを意識すると、美しい文字が書けるということを知りました。「一寸」という字は「いっすん」という読み方の他に「ちょっと」という読み方があるということがわかりました。岡村先生の名前にもある「村」という漢字は、ちょっとの人が切り株に集まったことから始まって、村ができたから、木と寸と書くということを初めて知りました。

○感想

漢字には成り立ちがあり、それを理解した上で文字を書くことは、とても楽しいことだと思いました。他の漢字の成り立ちも知りたいと思いました。これから社会に出たとき、人前で文字を書く機会が増えると思います。今日学んだことを生かして、心の込もった美しい文字を書ける人間になりたいです。デジタルの機械的な文字が普及している中で、


○講義の概要　美しい文字を書く時に大切な事は、真っすぐな縦線右上がりでわん曲した横線、縦長の形状である。二十歳前後で自分の文字が固まる。"実用的な事"を学ぶのが大学である。500年以前（1500年間）美や実用性を重視して漢字が作られた。その後、丸いものが好きな日本人は、字の簡略化なども含め、平仮名をつくった。真名＝漢字であり、仮名は書き下し文などの作成時に仮の記号として使われていた。平仮名は曲線的、漢字は直線的である。900年に仮名文字の完成。血液型によっても字のくせに差がある。高校までは授業（業を授く）だが、大学では研究を行う。生徒がパートナー。

○感想　私は書道部に所属していて、行書を担当しています。しかし、今まで字の成り立ち、意味などについて深く調べたことはありませんでした。だから、今回の講義を通して、字というもの

生徒の感想文より（二人分）